



「町を想い、愛する、 すべての人たちとともに」

～『みんなが幸せを実感できる
元気なまち こおり』を目指して～

桑折町長 高橋 宣博

町民の皆様には、日頃から、町政運営に対しご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

はじめに、3月16日に発生した令和4年福島県沖地震は、昨年2月同様、最大震度6弱の激しい揺れに襲われ、伊達崎地区を中心に、町内全域で甚大な被害を被りました。あらためて、被災した皆様に心よりお見舞い申し上げます。

現在、県をはじめ、各自治体からの応援職員とともに、罹災証明書等の発行や被災家屋調査を鋭意進めている所であり、今後においては、国・県と連携し、被災した皆様への支援に努めてまいります。

新型コロナウイルス感染症については、感染力の高いオミクロン株がピークアウトにあると言われておりますが、国内及び県内において新規感染者の減少幅が小さく高止まりの状態が続いています。引き続き、3回目のワクチン接種事業を着実に進めるとともに、町民の皆様には、基本的な感染対策の徹底と、慎重な行動をお願いしつつ、今後については、町民のコミュニティ再生はもとより、社会経済活動の活性化に向けて、ウィズコロナ・アフターコロナ時代を見据えた各種施策に取り組んでまいります。

さて、迎えた新年度は、コロナの克服はもとより、頻発・激甚化する自然災害やデジタル社会の進展など、激変する社会情勢にしっかりと向き合い対応すべく策定した新総合計画「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」の初年度として、力強いスタートを切るための大切な年であります。

令和4年度当初予算編成にあたりましては、新総合計画の着実なスタートを切るため、6つの視点に立つ「6恵6幸こおり 未来プラン」を念頭に、コロナ禍の克服はもとより、「桑折ならではの」の主要施策に重点配分いたしました。

一般会計については、総額56億5,100万円で、前年度比2億7,260万円、率にして5.1%の増となっており、私は、この当初予算を「未来躍動へのキックオフ予算」と名付け、健全な行財政運営を一層図りながら、輝かしい未来に向けた「確かな一歩」を踏み出す年としていきたいと考えております。

また、行政執行にあたりましては、常に経費全般にわたる節減合理化等の取り組みを推進し、最少経費で最大の効果を上げるよう努めることはもとより、総合計画の推進と表裏一体の関係にある「地方創生SDGs」の浸透拡大を常に意識しながら、「変革と創造」をテーマに、職員一丸となり、スピード感をもって、着実かつ積極的に総合計画を推進してまいりますので、町民の皆様には、今後とも、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



桑折町は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

人口減少と超少子高齢化が進行するなか、国は、将来にわたって人々が安心して暮らせるような、持続可能なまちづくりに当たっては、SDGsの理念に沿って進めることで、地方創生の取組みの一層の充実・深化につなげることができるとしています。

本町においても、人口減少・超少子高齢社会の到来など、地域の課題が顕著となっており、持続的なまちづくりを実践していくためには、地域全体でSDGsの理念を共有し、多様な主体とのパートナーシップにより、新しい価値の創造や恵まれた地域資源の継承、地域経済の活性化などに取り組んでいく必要があるとの考えに至り、令和3年5月、SDGsの推進に取り組む金融機関や民間事業所と包括連携協定を締結するとともに、6月には、より良い未来を次世代に引き継いでいくために「地方創生SDGs推進の町」を宣言しました。今後は、町、町内事業者、町民が一丸となったSDGsの理念に基づいた取組みを推進していきます。

